

# 当社への期待と新たな価値を社会へ～CSRマ

当社グループの経営理念に掲げる「共存共栄」の実践により、新たな価値を提供するため、持続可能な社会の成長に向けて取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を選定し、2020年度のCSR目標を設定しました。

## ESG経営の考え方

近年、企業が長期にわたり持続的に成長するために必要な要素として、E(環境)・S(社会)・G(ガバナンス)の3つの視点に注目が集まっています。

日本ペイントホールディングスグループは、これらESGの視点を優先的に取り組むべき経営課題と認識し、それぞれの側面で積極的な取り組みを進めています。

具体的には、E(環境)側面においては、社会生活のあらゆる側面で利用されている塗料を製造する企業として、その生産工程から塗装工程、さらには建築物や自動車など、塗装を施した様々なモノが実際に使用される側面に至るまで、すべてのプロセスにおいて環境負荷を和らげ、お客さまが抱える環境課題の解決に貢献してまいります。

また、S(社会)側面においては、何よりも当社グループ自身が性別はもとより国籍や文化、生活習慣の異なる多様な人材を抱えるグローバル企業であることに着目し、これらの人材が互いに尊重され、能力を発揮できる組織作りに取り組んでまいります。

さらに、G(ガバナンス)の側面においては、同様に多様な成り立ちを持つグループ企業の地域ごとの独自性を生かせる「NNモデル」を展開しつつ、グローバル本社と地域統括会社(RHQ)を中心とした強固なガバナンス体制の構築に取り組んでまいります。

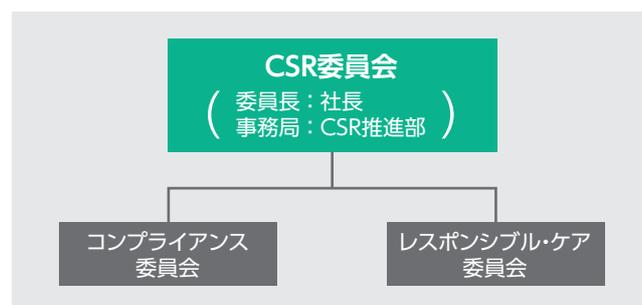
当社グループは、これらの取り組みがステークホルダーの皆さまに新たな価値を創出してリーディングポジションを勝ち取るためのキーであると考え、それぞれの視点から当社が抱える重要な

課題(マテリアリティ)を特定したうえで、2018年1月に2020年に達成すべき目標を設定し、取り組みを進めています。

## 組織体制

当社グループでは、社長を委員長とするCSR委員会を当社内に設置してガバナンスおよび社会分野に関する課題について議論するとともに、その傘下にそれぞれ当社の機能部門長や国内主要子会社の代表で構成されるレスポンシブル・ケア委員会(安全環境を所管)とコンプライアンス委員会を設置し、グループ横断的にCSR活動を推進しています。

また、2018年度からは、風土改革の取り組みとして「風土改革ステアリング・コミッティ」およびその傘下に「CSR・ESG経営推進ワーキンググループ」、「働き方改革推進ワーキンググループ」、「経営理念浸透ワーキンググループ」を置き、風土改革の視点から新たな取り組みも進めています。 ▶ 詳細はP29・30参照



## 当社グループのCSR目標およびその進捗

設定したマテリアリティに基づいて掲げた2020年度目標と、2018年度の進捗は下記のとおりです。

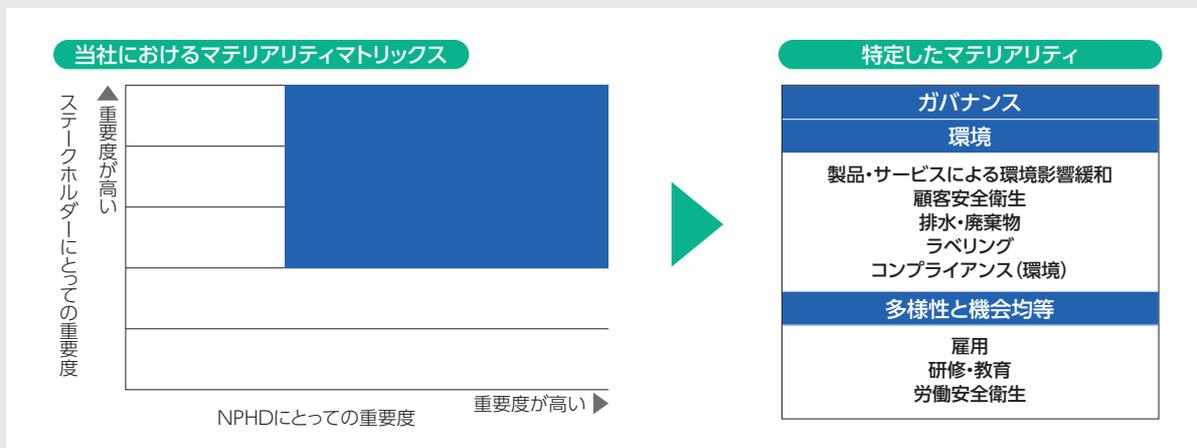
側面	ありたい姿	課題
ガバナンス	グローバル競争に対峙しうるガバナンス体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経営理念の共有</li> <li>●RHQ体制の確立</li> </ul>
環境	環境対応による価値創造が事業・収益を拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境配慮製品の創出・普及</li> <li>●化学物質の適正管理</li> </ul>
多様性	多様な人材の集結による「知の多様化」	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多様な人材が協働</li> <li>●意思決定の場で多様な人材が尊重される</li> <li>●安心して働ける職場</li> </ul>

# ネジメント ～

## マテリアリティ(重要課題)の選定プロセス



- ① 主要ステークホルダーの当社への期待を社会の要請として収集しました。
  - ② 当社における中長期の経営課題を分析し事業における重要課題を把握しました。
  - ③ ①および②をGRIガイドライン(G4)をもとに分析・分類し、社会の要請に対して当社グループが取り組むべき重要課題を把握しました。
- STEP1で把握した重要課題を、「ステークホルダーにとっての重要度」と「当社グループにとっての重要度」の2軸で総合的に評価し、優先順位付けを行いました。
  - STEP2で得た結果を整理し、当社グループが優先的に取り組むべき重要課題(マテリアリティ)を選定しました。
  - 当社経営会議で審議し、マテリアリティの妥当性を確認のうえ、2020年に向けたCSR目標を設定しました。



2018年の取り組み結果	2020年度の目標(達成状態)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●(国内)経営理念浸透活動が進行(海外)浸透に向け、英語版資料作成、共有開始</li> <li>●CSR推進体制構築に向け課題整理</li> <li>●米州RHQ体制に目処</li> <li>●「環境配慮製品定義」を策定(P19参照)</li> <li>●レスポンシブル・ケア委員会にて推進・実施し、概ね目標達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 経営理念浸透活動の定着</li> <li>② CSR推進体制の定着</li> <li>③ NNモデルの定着 グローバルガバナンスの全体調和</li> </ul> <p>グローバルで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①環境配慮製品の開発促進・普及</li> <li>② 排出化学物質の適正管理・削減</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●在宅勤務制度・時間単位有給休暇制度の試行</li> <li>●女性リーダー選抜育成、女性異業種交流研修</li> <li>●次世代経営者育成プログラム開始</li> <li>●重大労働災害0件</li> </ul>	<p>グローバルで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 統一の人事制度構築</li> <li>② 多様な働き方・多様な人材の定着、活躍</li> <li>③ 「世界の舞台」で活躍できる人材確保</li> <li>④ 重大労働災害0件</li> </ul>